

Handwritten Japanese text in cursive (sōsho) style, arranged in several vertical columns across the cover. The characters are fluid and characteristic of the Edo or Meiji periods.

藤

~ 13
3755
4



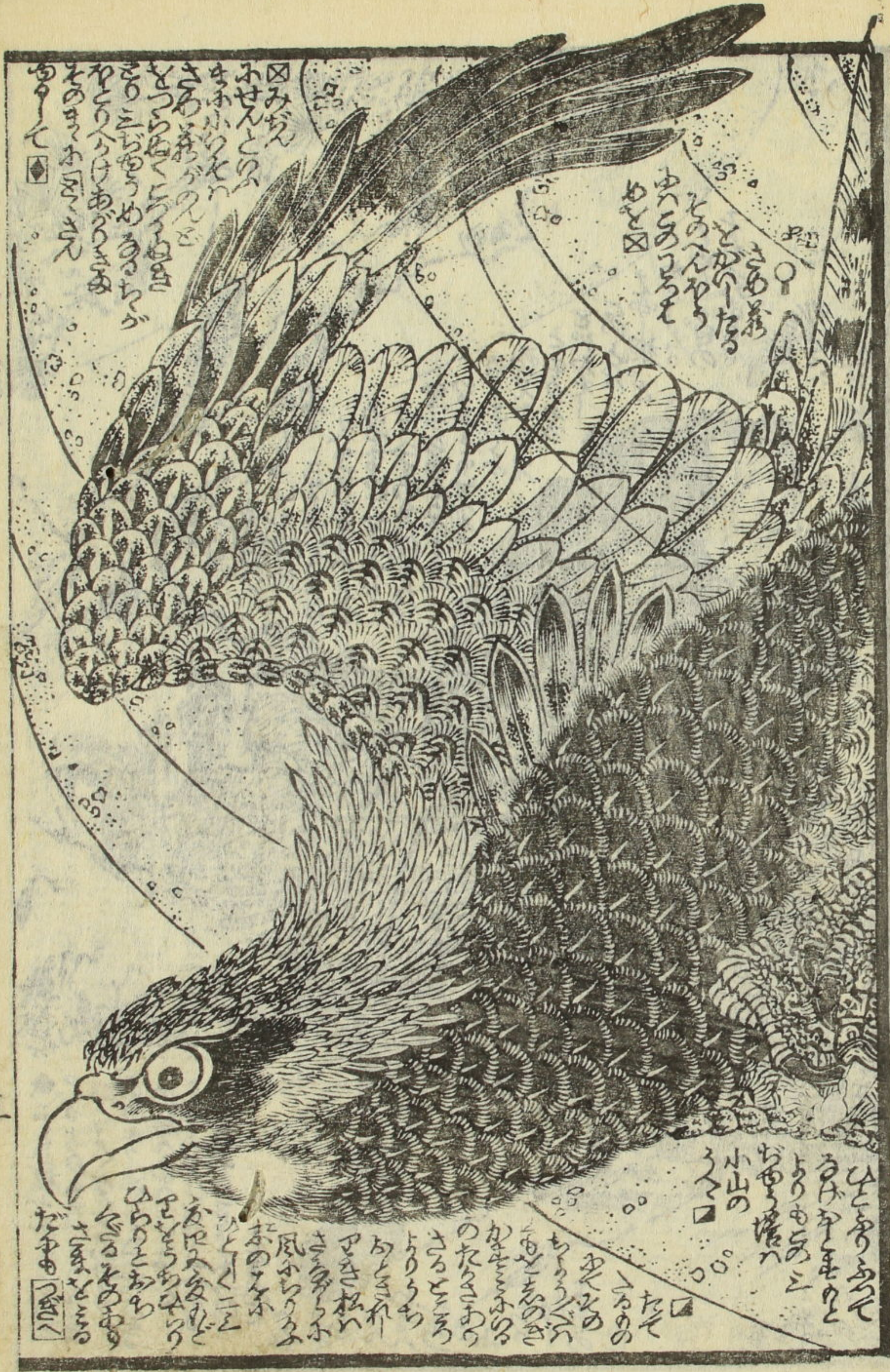


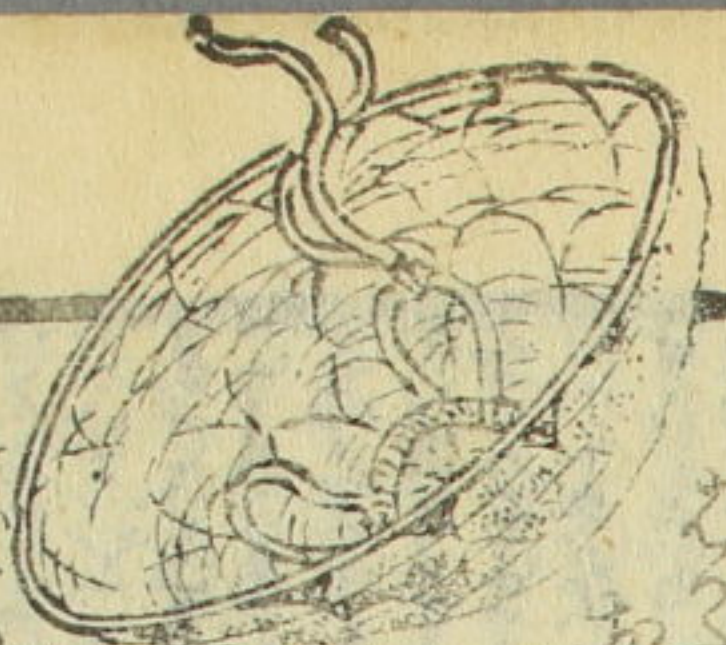


錢湯せんとう並なら髪結かみむす床とこ隣家となり垢あかのすり序じ已ま櫛くしの歯と埋うも多おほか
 天てん猊し羅ら齋さいの傍は荷居にがゑる夜よ蕎麥そば賣うは彼揚鍋かのあげの湯氣ゆげを借かて此振このふる瓦わ
 潤うるあるのべりとそれのいは僅わずか異いれも此書このしよあらぬひも一陽齋いつやうさいが筆ふでの妙手めいしゆふ
 依より流なが行ゆ稗史ひえいしの數かずふりと尊とまけり當年の格別かくべつ丹誠たんじやうを盡つくす
 人物にぶつのいふも更さらなり屋体やたい圖ずより衣服いふくの模様もやう或景色あるけしきよ至いた迫ま至極いたぎやく微細みづかし
 画えのれは是こゝと前文ぜんぶんのと比ひどるふ焚たぎ加減かへんより新造しんぞう風呂ふろの板間いたまを編木あみぎと
 鮮あまも東西とうせいの限かぎをと櫃ひの油あぶらで調たうたるにむかりといふく妳い看かん官くわんの御意ごいふ
 的てきひ益愛顧えきあいこ一いたりひからとれは透引てういんく夜よ鬻うの下品か可よ満み子こ剃そ
 初心しんしんの未熟みじく髪結かみむすも劣せうし僕が拙作せつさくは聊しかうは江湖かうかうに售うる事こともあらず
 嘉永かえい壬子にんし正月

柳下亭種員記







Handwritten text in the left margin, including the name 'Shimada' and other characters.



Handwritten text above the samurai illustration, including the name 'Shimada'.

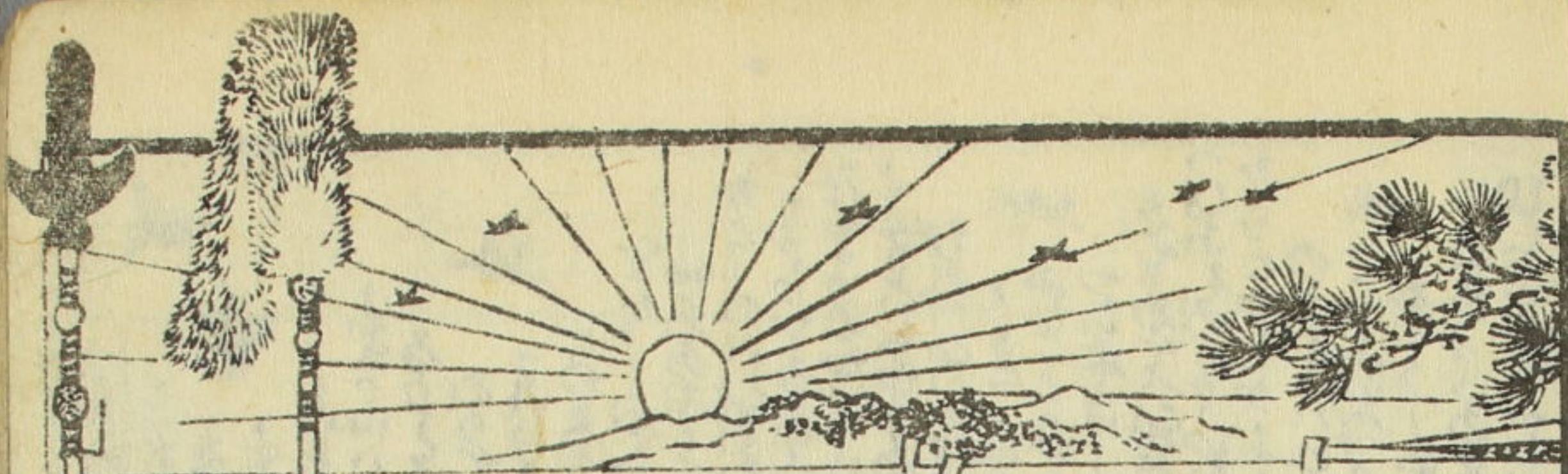
Handwritten text below the samurai illustration, including the name 'Shimada'.



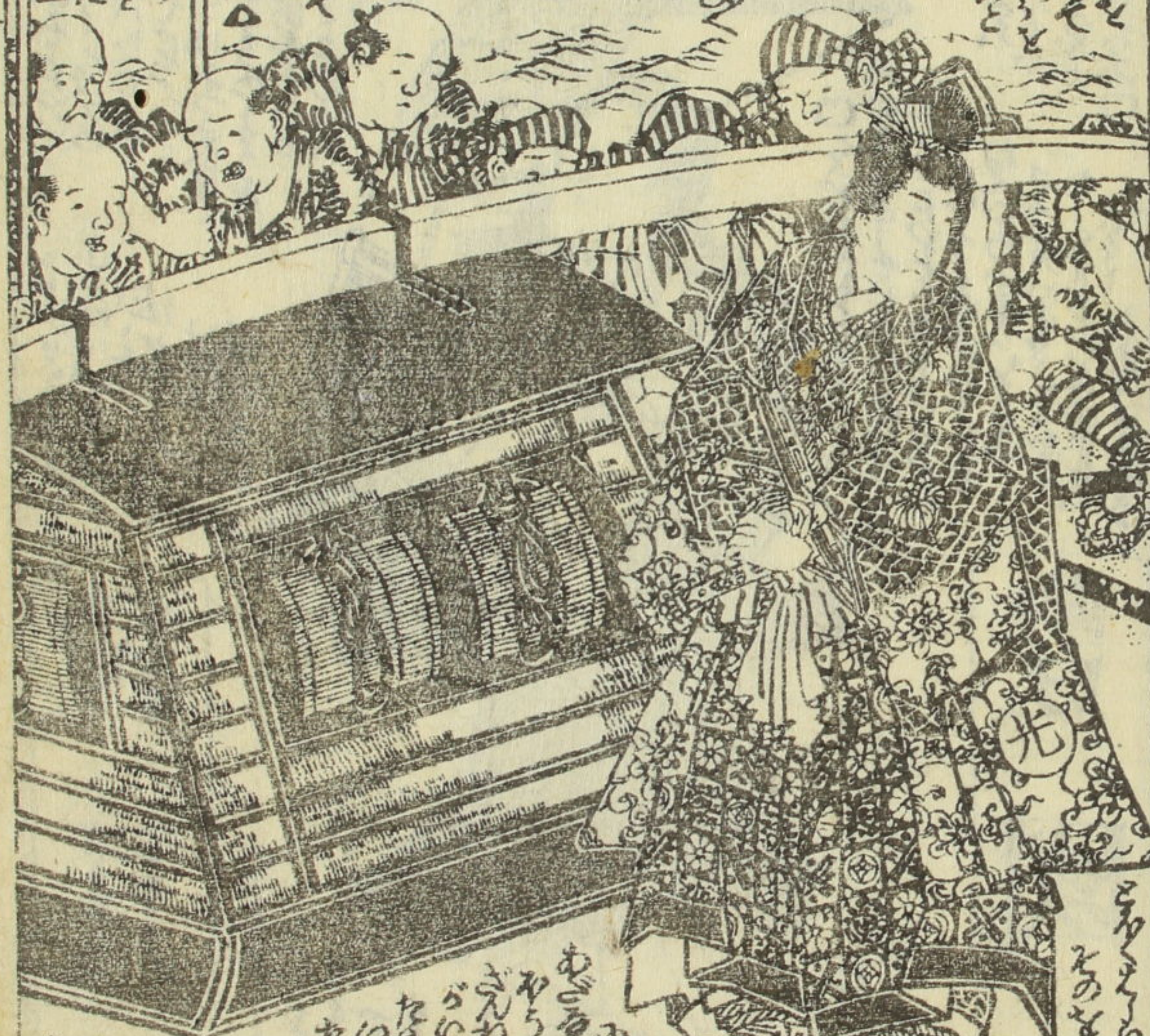
Handwritten text above the woman illustration, including the name 'Shimada'.

Handwritten text below the woman illustration, including the name 'Shimada'.

Vertical handwritten text on the right edge of the page.



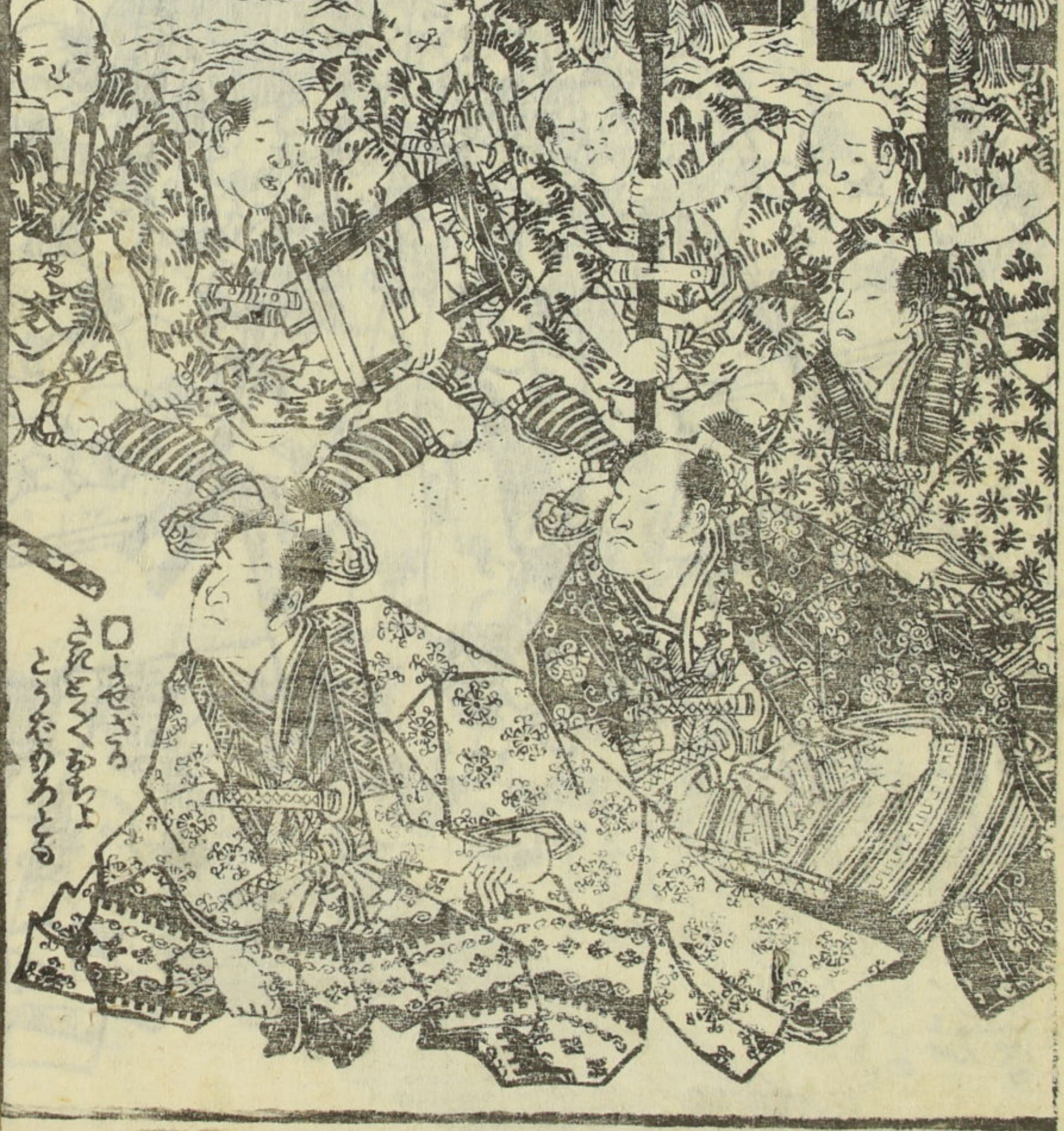
このおぼろげな
夕陽の光を
たのむもの
ささげを
あまのこ
のまはら
ひらけ
あまのこ
のまはら
ひらけ



このおぼろげな
夕陽の光を
たのむもの
ささげを
あまのこ
のまはら
ひらけ
あまのこ
のまはら
ひらけ



このおぼろげな
夕陽の光を
たのむもの
ささげを
あまのこ
のまはら
ひらけ
あまのこ
のまはら
ひらけ



このおぼろげな
夕陽の光を
たのむもの
ささげを
あまのこ
のまはら
ひらけ
あまのこ
のまはら
ひらけ

嘉永五年壬子歳新著目標

此の書のありさまをいひて
 こゝろをさすやあはれいふ
 ありとせうとせうとせうと
 まはらぬけりてせうとせうと
 とせうとせうとせうとせうと
 あま山にさうまうぶさうのよまうま
 るりさうのやわらぬのやまらも
 ありてかたさうとせうとせうと
 せうとせうとせうとせうと
 せうとせうとせうとせうと



小磯清光尼と
 法名として
 武時を旅立

種員作

豊國画

輪應 報週 新編いとせうとせうと
 中本 三冊

柳下亭種員作
 香蝶樓豊國画

錦木新七
 於梅条之助
 万年草新渡鉢植全
 同同

同同
 作画

此二書ハ夏迄行某グのいなる人情本とすりて異りて忠孝とせうとせうと
 こゝろ一其体裁とせうとせうとと画入よま本の中間ふつたり年々此類數種に
 といひ間御覽のやと表希上の

禁 玉壺生肌膏 一頁 廿六孔
 〇Wのひんひんをいひてをいひて
 〇あつゝ〇あつゝ〇あつゝ〇あつゝ〇あつゝ〇あつゝ〇あつゝ〇あつゝ〇あつゝ

金瘡 奇功 一板 廿四孔
 〇あつゝ〇あつゝ〇あつゝ〇あつゝ〇あつゝ〇あつゝ〇あつゝ〇あつゝ〇あつゝ

製藥所 新吉原
 取次所 真乳業石坂下
 柳下亭

地本繪類書林 通油町 松林堂 藤岡屋慶次郎



梅東書之接

白

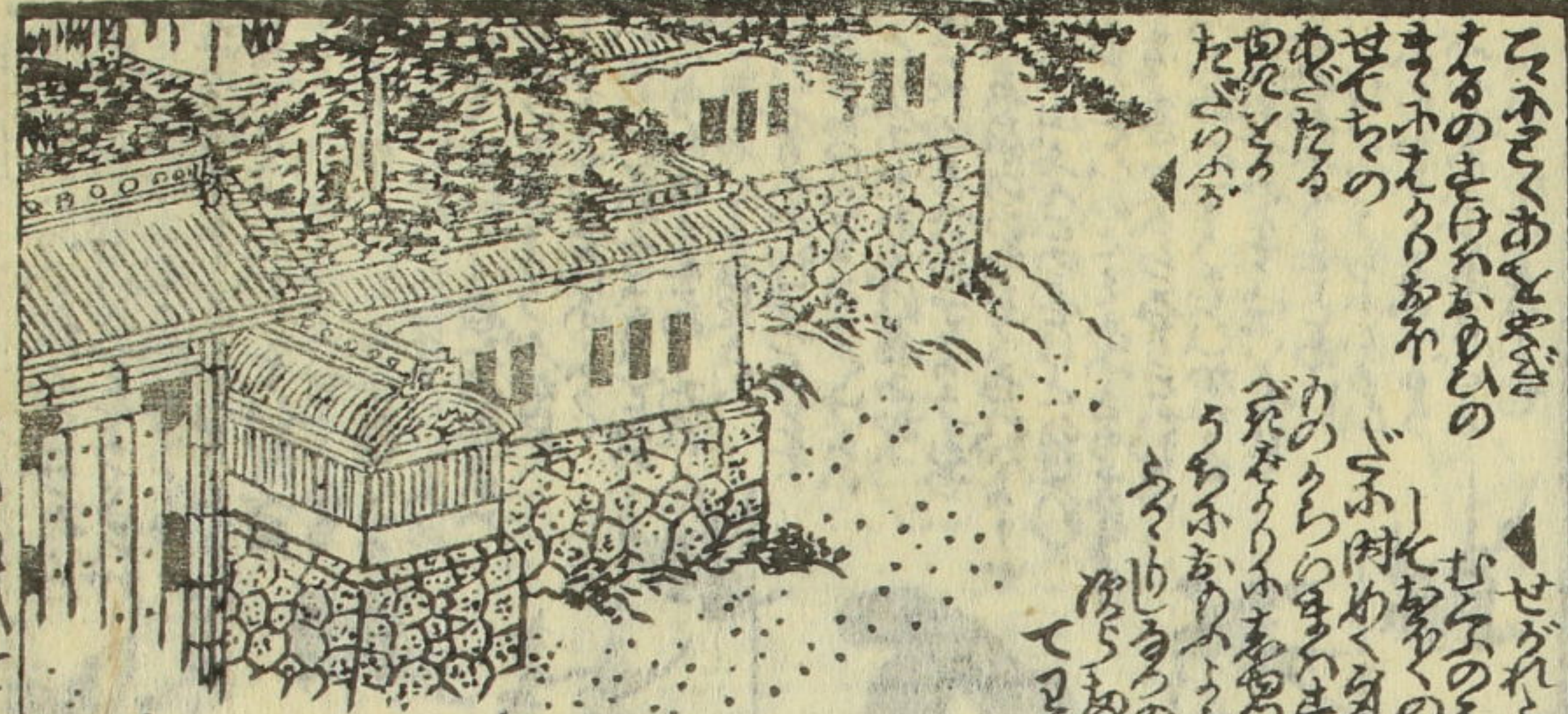
魂

魂



下編七



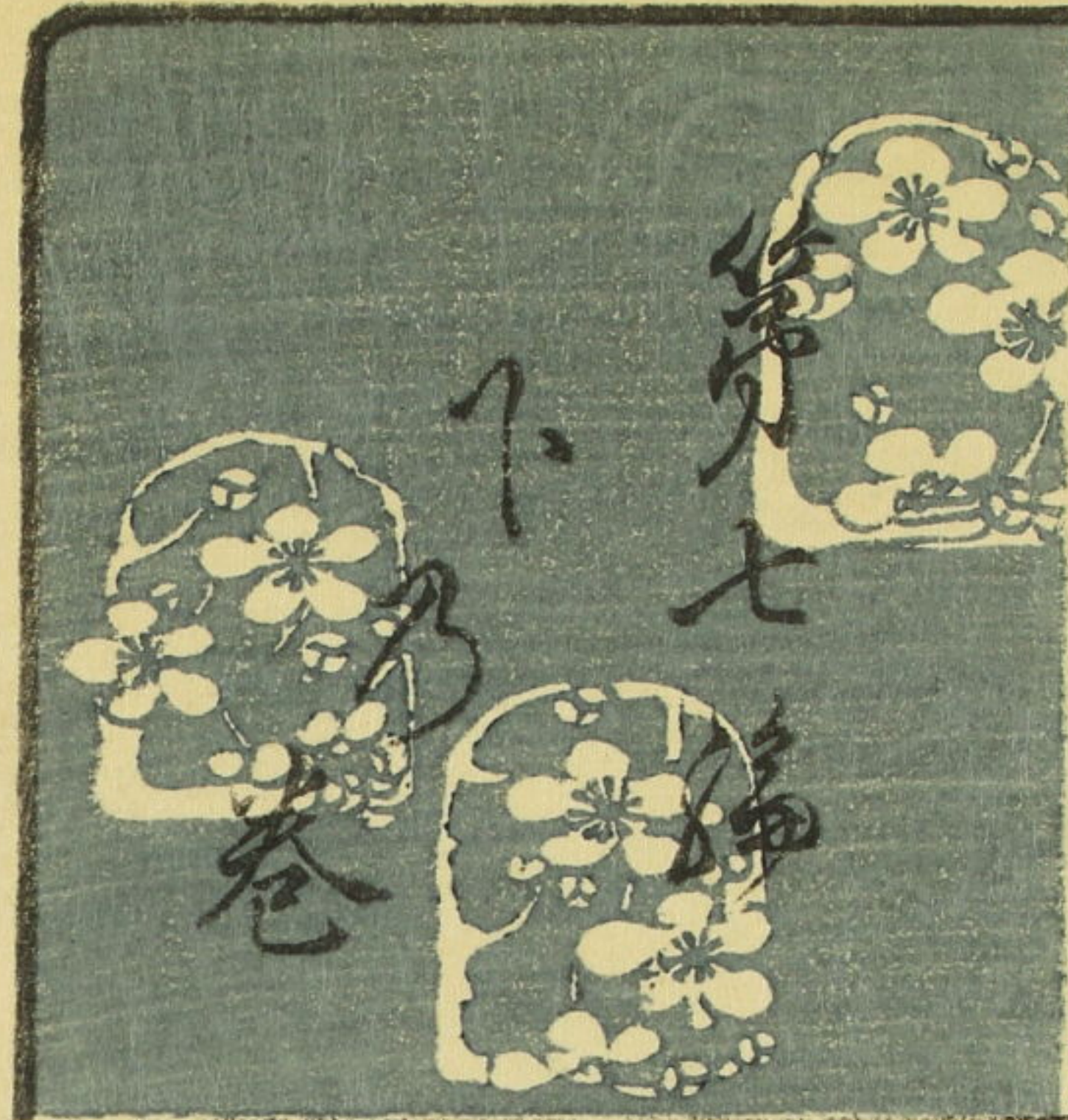


このまは...
なるのまは...
まは...
まは...

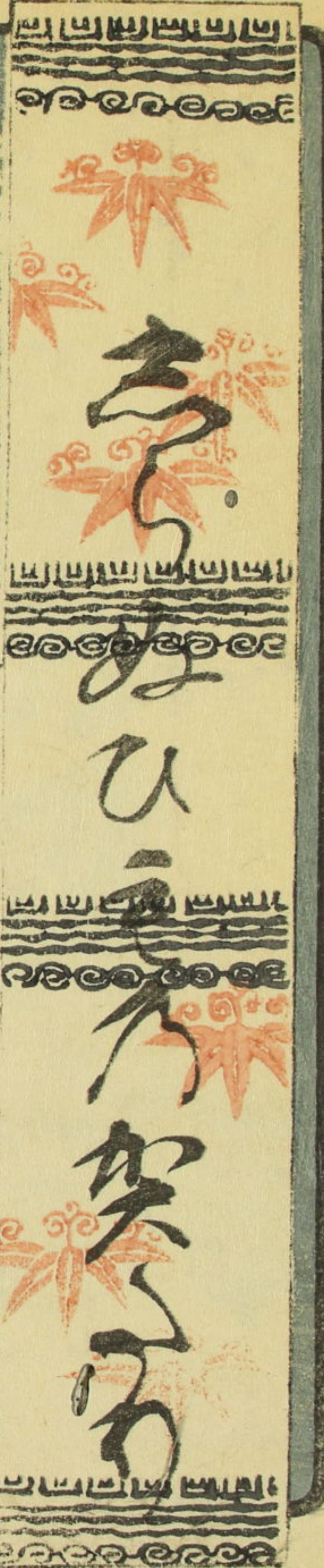
せがれ...
せがれ...
せがれ...
せがれ...

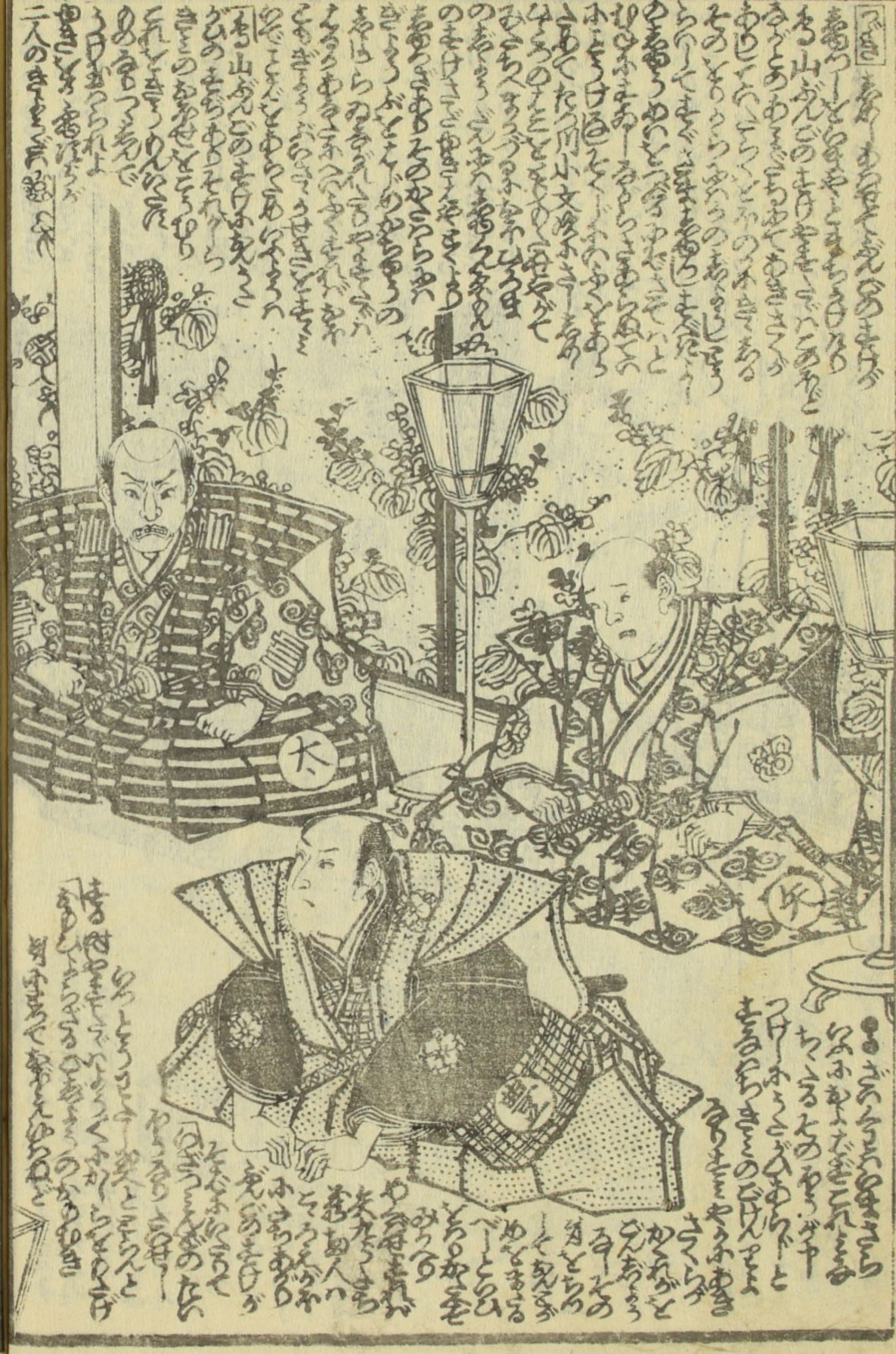
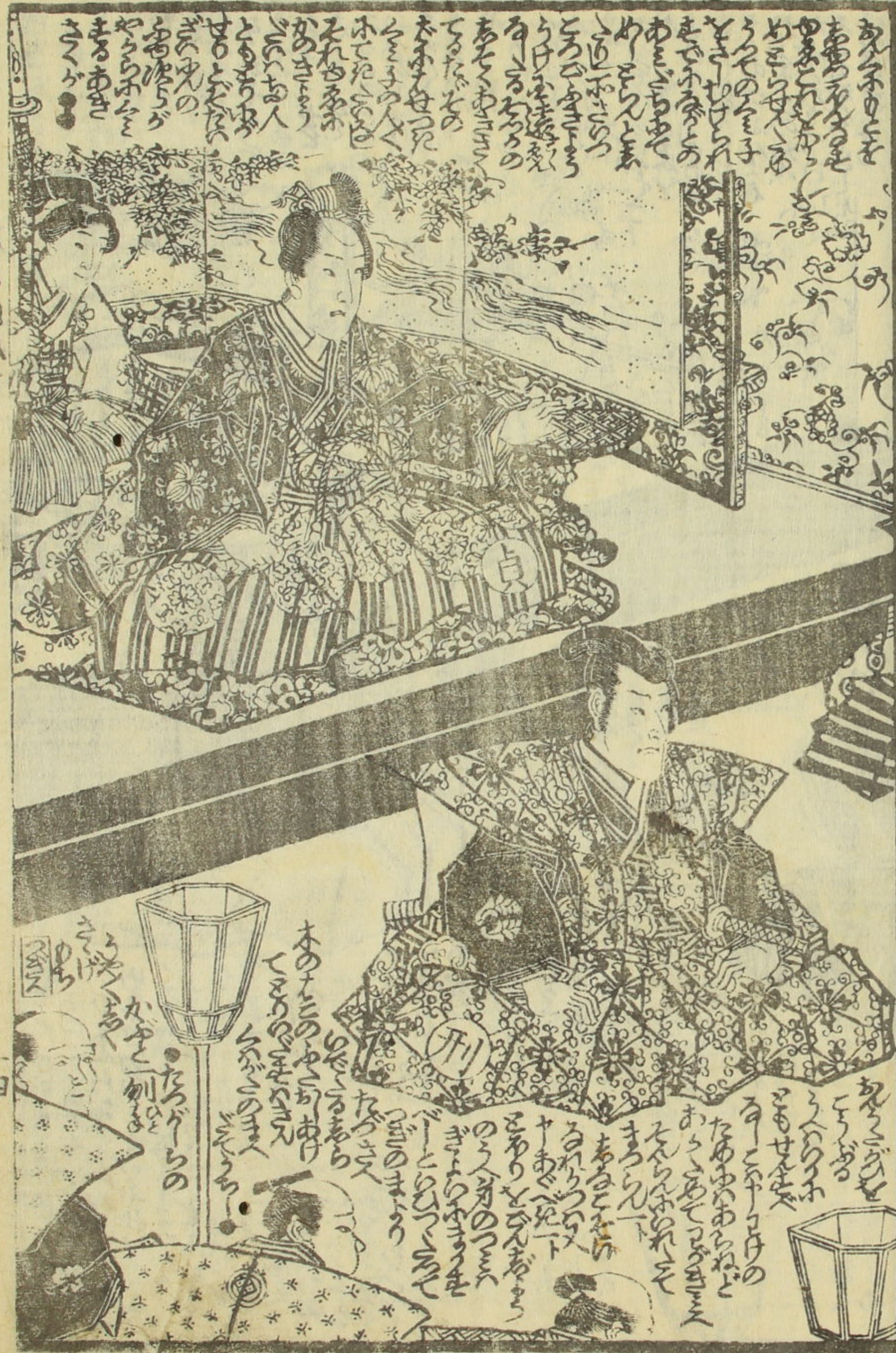
さ...
さ...
さ...
さ...

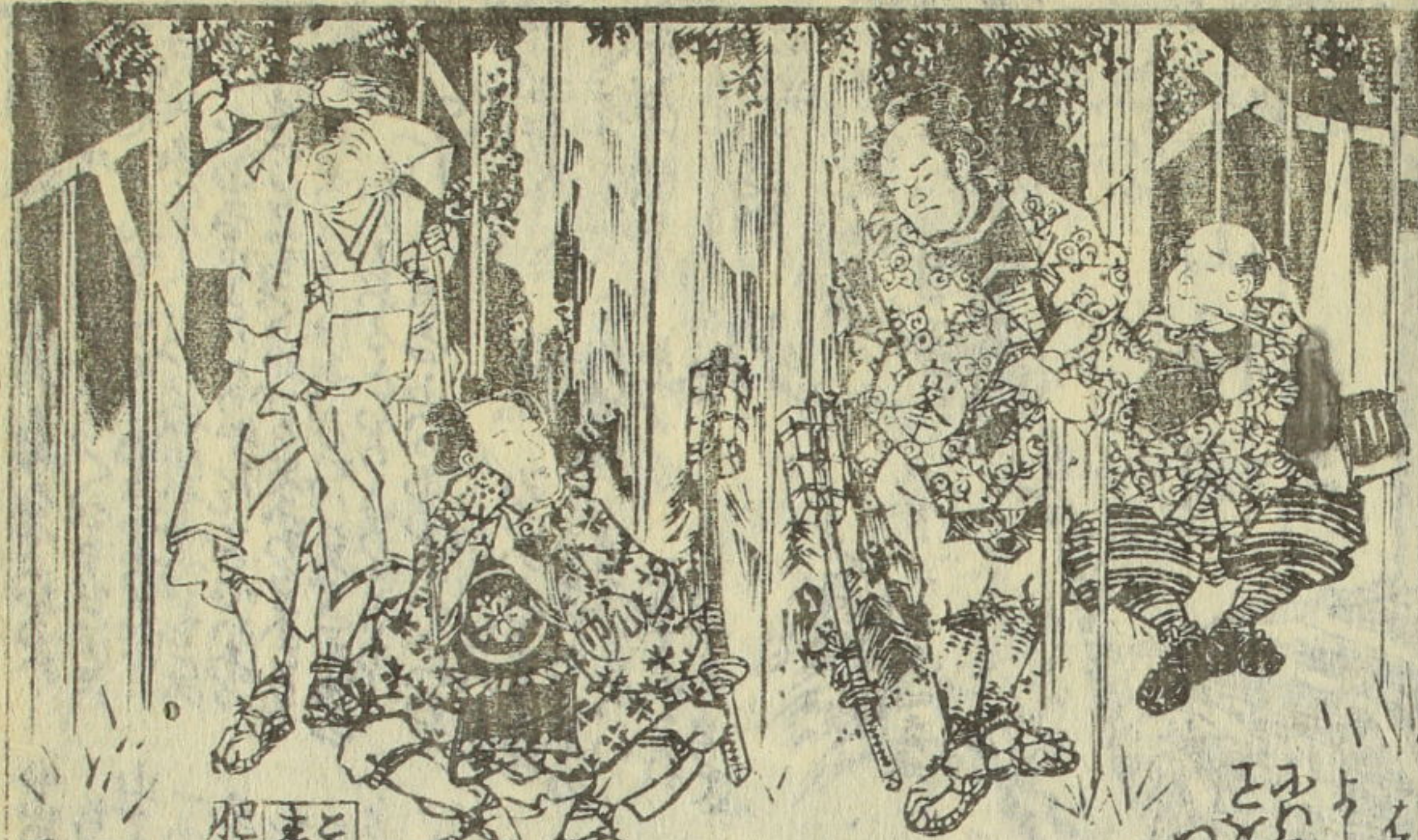
た...
た...
た...
た...



下巻
下巻
下巻
下巻
下巻
下巻
下巻
下巻
下巻
下巻







肥前

肥前松浦郡中津山村に於て
 此の如くありし事あり
 肥前松浦郡中津山村に於て
 此の如くありし事あり
 肥前松浦郡中津山村に於て
 此の如くありし事あり



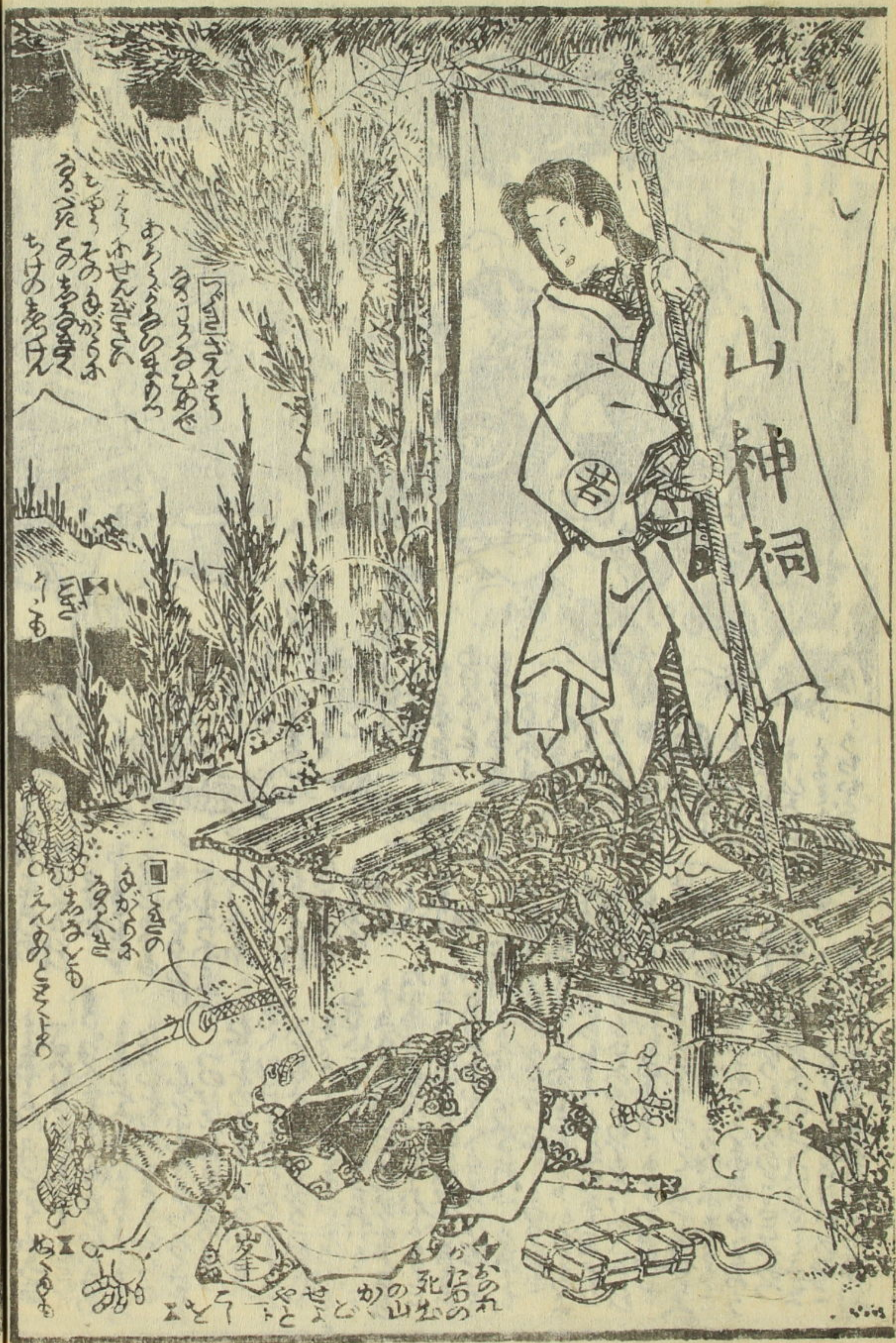
肥前

肥前松浦郡中津山村に於て
 此の如くありし事あり
 肥前松浦郡中津山村に於て
 此の如くありし事あり
 肥前松浦郡中津山村に於て
 此の如くありし事あり



肥前松浦郡中津山村に於て
 此の如くありし事あり
 肥前松浦郡中津山村に於て
 此の如くありし事あり
 肥前松浦郡中津山村に於て
 此の如くありし事あり

肥前松浦郡中津山村に於て
 此の如くありし事あり
 肥前松浦郡中津山村に於て
 此の如くありし事あり
 肥前松浦郡中津山村に於て
 此の如くありし事あり



嘉永五年壬子歲新鐫書目録

右冊子の美しき見物様方殊々外和意の時以て返り編み乃河津舞臺山間
當春ハ七編より千之條迄の如き返り編みに似たり是より年々七八編づく
毎一帯是の如く別てPニ其業を河津舞臺と通り各舞臺に長條
の如く六條迄の如き返り編みの趣向當に返り編みの如く仕境に入
條にね成且又画も殊更丹城を以て彫刻製を以て極く精麗に仕
向出板毎道近辺の画に店々和米と云ふ如き河津舞臺の如き仕
右と画入の如き今年より別つての如き以て
御風能き帯と云ふ

種員作豊國画



志のぬいも結のるる

折下亭種員作
志のぬいも結のるる
右七編より千之條迄の如き返り編みに似たり是より年々七八編づく

右冊子の美しき見物様方殊々外和意の時以て返り編み乃河津舞臺山間
當春ハ七編より千之條迄の如き返り編みに似たり是より年々七八編づく
毎一帯是の如く別てPニ其業を河津舞臺と通り各舞臺に長條
の如く六條迄の如き返り編みの趣向當に返り編みの如く仕境に入
條にね成且又画も殊更丹城を以て彫刻製を以て極く精麗に仕
向出板毎道近辺の画に店々和米と云ふ如き河津舞臺の如き仕

新曲富士太鼓

同作
同画

當年出板

地本錦画書林 通油町 藤岡屋慶治郎板



八編上

藤屋松



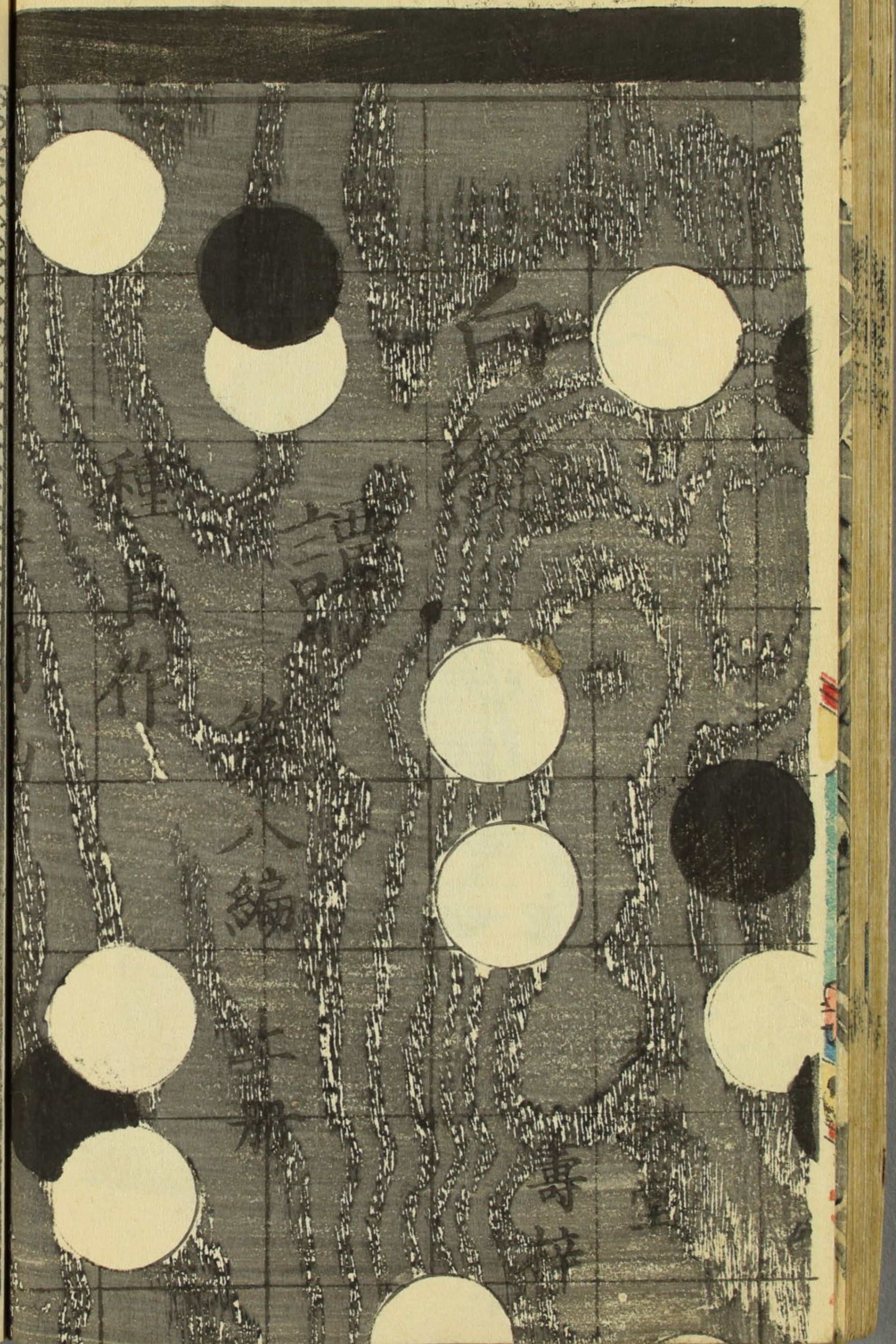
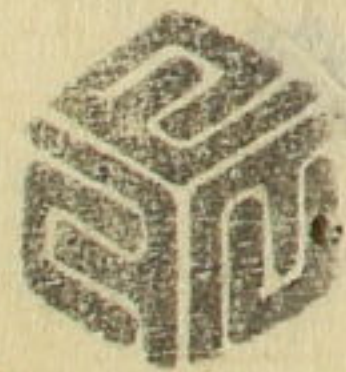
不知火物語第八編叙

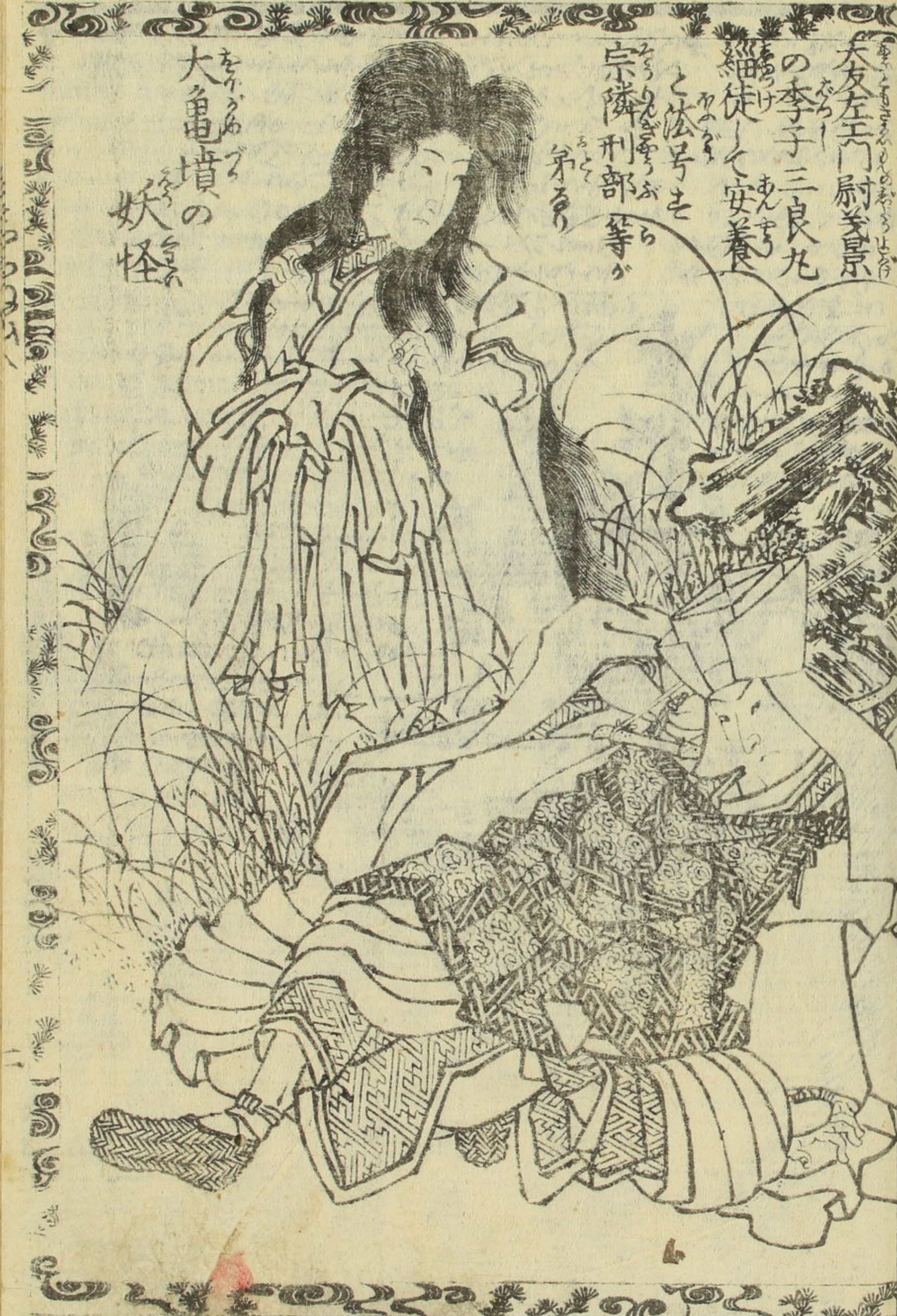
基石の黑白其色異く同物あり是等とさして反對と称せど
 此卷中の若菜姫鳥山秋作も又然心小邪正の懸隔をいれども
 所業ハ鬚鬚女丈夫英勇勝負を争ふ互角高伎粘を断照忠が
 齊力割と鬆娘子が妖術錦を織の鉄錫のるも手小條を引張る
 策子の盤面敲散一頻小工夫ハ態ども好作意と視ば妙手ハ
 出で下手の考案止不似る此常言も的哉と拙き自を歎く
 只管冀音官の御助言所謂他見八目の八編の序ハ因具名の詞
 本據て斯ハ記の

嘉永壬子開歲

柳下亭種員

構室書





大亀墳の
妖怪

大友左門尉景
の李子三良丸
緇徒と安養
と法号を
宗隣刑部等が
弟あり

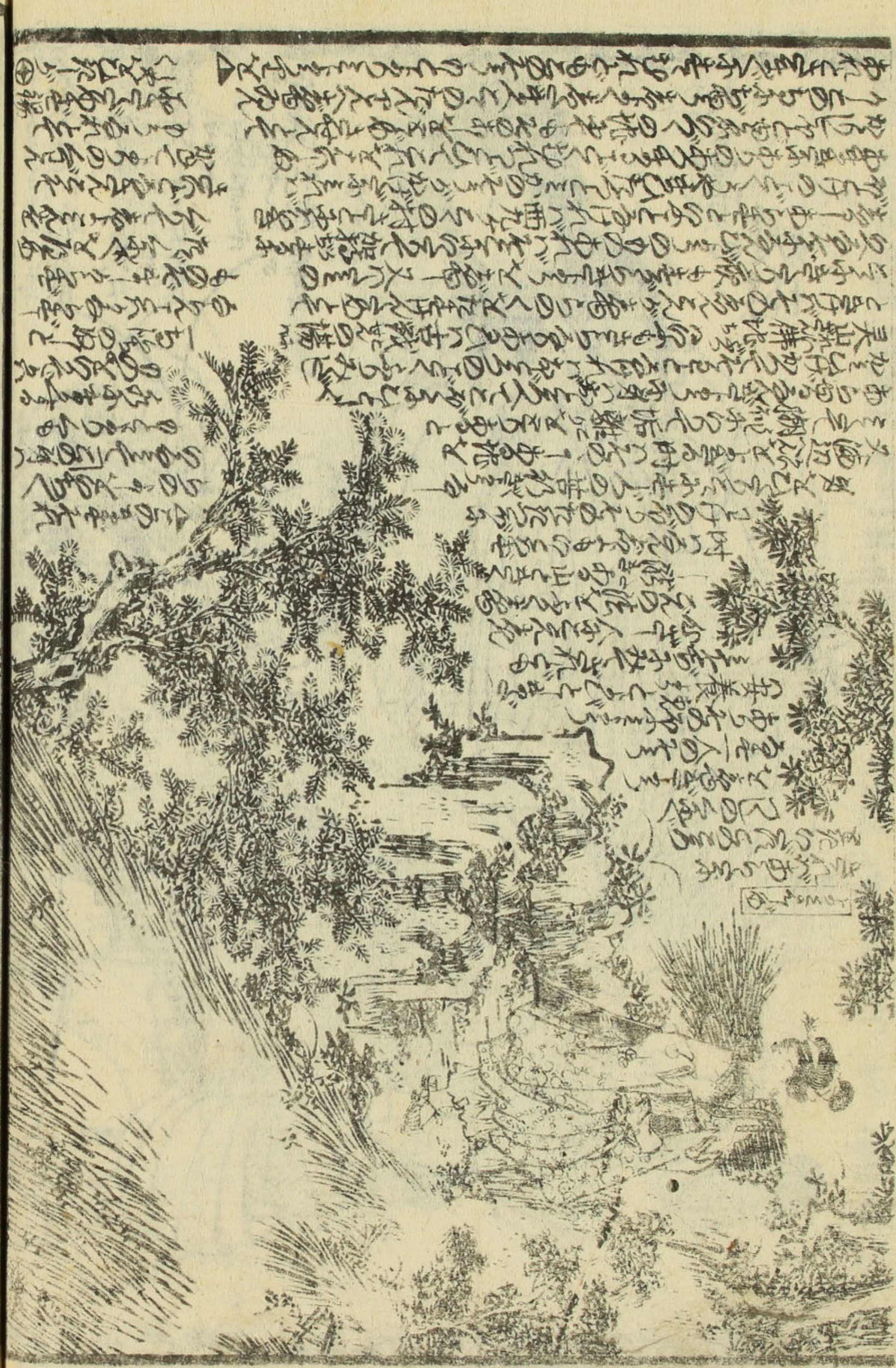


大友家歩吏
只村弥太夫
後筑前國
落合邑
住
彌平治
と呼

大亀家



Handwritten Japanese text in vertical columns, likely a haikai or waka poem, accompanying the illustration. The text is written in a cursive style and includes characters such as 春 (Spring), 水 (Water), and 山 (Mountain).



Handwritten Japanese text in vertical columns, continuing the poem or providing commentary on the landscape illustration. The text is written in a cursive style and includes characters such as 山 (Mountain), 水 (Water), and 雲 (Clouds).



木中
 ちあれた
 ののま
 りる合
 下
 にそぐ
 のひま
 りる血
 りるの
 ちる

1841...
 1842...
 1843...
 1844...
 1845...
 1846...
 1847...
 1848...
 1849...
 1850...
 1851...
 1852...
 1853...
 1854...
 1855...
 1856...
 1857...
 1858...
 1859...
 1860...
 1861...
 1862...
 1863...
 1864...
 1865...
 1866...
 1867...
 1868...
 1869...
 1870...
 1871...
 1872...
 1873...
 1874...
 1875...
 1876...
 1877...
 1878...
 1879...
 1880...
 1881...
 1882...
 1883...
 1884...
 1885...
 1886...
 1887...
 1888...
 1889...
 1890...
 1891...
 1892...
 1893...
 1894...
 1895...
 1896...
 1897...
 1898...
 1899...
 1900...



1841...
 1842...
 1843...
 1844...
 1845...
 1846...
 1847...
 1848...
 1849...
 1850...
 1851...
 1852...
 1853...
 1854...
 1855...
 1856...
 1857...
 1858...
 1859...
 1860...
 1861...
 1862...
 1863...
 1864...
 1865...
 1866...
 1867...
 1868...
 1869...
 1870...
 1871...
 1872...
 1873...
 1874...
 1875...
 1876...
 1877...
 1878...
 1879...
 1880...
 1881...
 1882...
 1883...
 1884...
 1885...
 1886...
 1887...
 1888...
 1889...
 1890...
 1891...
 1892...
 1893...
 1894...
 1895...
 1896...
 1897...
 1898...
 1899...
 1900...

1841...
 1842...
 1843...
 1844...
 1845...
 1846...
 1847...
 1848...
 1849...
 1850...
 1851...
 1852...
 1853...
 1854...
 1855...
 1856...
 1857...
 1858...
 1859...
 1860...
 1861...
 1862...
 1863...
 1864...
 1865...
 1866...
 1867...
 1868...
 1869...
 1870...
 1871...
 1872...
 1873...
 1874...
 1875...
 1876...
 1877...
 1878...
 1879...
 1880...
 1881...
 1882...
 1883...
 1884...
 1885...
 1886...
 1887...
 1888...
 1889...
 1890...
 1891...
 1892...
 1893...
 1894...
 1895...
 1896...
 1897...
 1898...
 1899...
 1900...

1841...
 1842...
 1843...
 1844...
 1845...
 1846...
 1847...
 1848...
 1849...
 1850...
 1851...
 1852...
 1853...
 1854...
 1855...
 1856...
 1857...
 1858...
 1859...
 1860...
 1861...
 1862...
 1863...
 1864...
 1865...
 1866...
 1867...
 1868...
 1869...
 1870...
 1871...
 1872...
 1873...
 1874...
 1875...
 1876...
 1877...
 1878...
 1879...
 1880...
 1881...
 1882...
 1883...
 1884...
 1885...
 1886...
 1887...
 1888...
 1889...
 1890...
 1891...
 1892...
 1893...
 1894...
 1895...
 1896...
 1897...
 1898...
 1899...
 1900...



大九谷

Handwritten text in the upper section of the left page, including the characters '大九谷' and '白'.

Handwritten text in the lower section of the left page, including the characters '白木山' and '村'.



Handwritten text in the upper section of the right page, including the characters '悟' and '心'.

Handwritten text in the lower section of the right page, including the characters '女' and '男'.

物

結

種員作

豊國画



八編下





鹿の鳴き声は山に響く
秋の風は草を揺らす
月影は池に映る
静かな夜に
鹿の足音は
遠くまで
響き渡る

鹿の鳴き声は
山に響く



鹿の鳴き声は山に響く
秋の風は草を揺らす
月影は池に映る
静かな夜に
鹿の足音は
遠くまで
響き渡る

鹿の鳴き声は山に響く
秋の風は草を揺らす
月影は池に映る
静かな夜に
鹿の足音は
遠くまで
響き渡る

鹿の鳴き声は山に響く



その時おのれを平へんきた
まぢりくまゝとありいひま
のりやゝゝゝゝゝゝゝゝ
おれゝゝゝゝゝゝゝゝ
かゝゝゝゝ

おのれを平へんきた
まぢりくまゝとありいひま
のりやゝゝゝゝゝゝゝゝ
おれゝゝゝゝゝゝゝゝ
かゝゝゝゝ

おのれを平へんきた
まぢりくまゝとありいひま
のりやゝゝゝゝゝゝゝゝ
おれゝゝゝゝゝゝゝゝ
かゝゝゝゝ

おのれを平へんきた
まぢりくまゝとありいひま
のりやゝゝゝゝゝゝゝゝ
おれゝゝゝゝゝゝゝゝ
かゝゝゝゝ

おのれを平へんきた
まぢりくまゝとありいひま
のりやゝゝゝゝゝゝゝゝ
おれゝゝゝゝゝゝゝゝ
かゝゝゝゝ

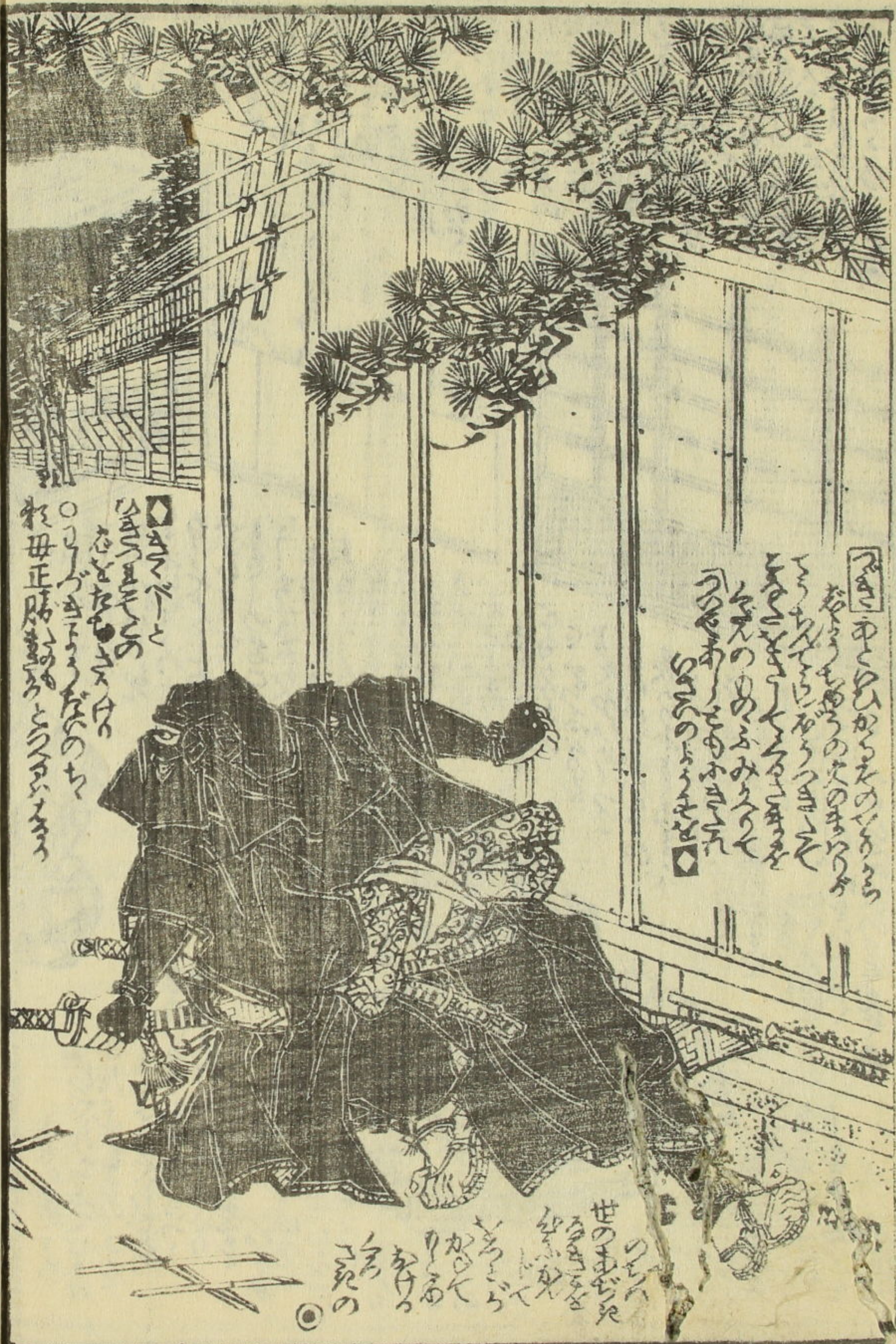
おのれを平へんきた
まぢりくまゝとありいひま
のりやゝゝゝゝゝゝゝゝ
おれゝゝゝゝゝゝゝゝ
かゝゝゝゝ



いんふあせとさつらんがるままあびと
よのかれいさつらとやらびんせ
いんふあせとさつらんがるままあびと
よのかれいさつらとやらびんせ
いんふあせとさつらんがるままあびと
よのかれいさつらとやらびんせ

いんふあせとさつらんがるままあびと
よのかれいさつらとやらびんせ
いんふあせとさつらんがるままあびと
よのかれいさつらとやらびんせ

いんふあせとさつらんがるままあびと
よのかれいさつらとやらびんせ
いんふあせとさつらんがるままあびと
よのかれいさつらとやらびんせ



いんふあせとさつらんがるままあびと
よのかれいさつらとやらびんせ
いんふあせとさつらんがるままあびと
よのかれいさつらとやらびんせ

いんふあせとさつらんがるままあびと
よのかれいさつらとやらびんせ
いんふあせとさつらんがるままあびと
よのかれいさつらとやらびんせ

いんふあせとさつらんがるままあびと
よのかれいさつらとやらびんせ
いんふあせとさつらんがるままあびと
よのかれいさつらとやらびんせ

地本錦画書林 通油町 松林堂 藤岡屋慶治印

此は嘉永四年の正月に
 刊行せられたるものなり
 其の趣意は如何なるに
 てもいふべからざるなり
 其の趣意は如何なるに
 てもいふべからざるなり

龍柳花渦浪 初編二編

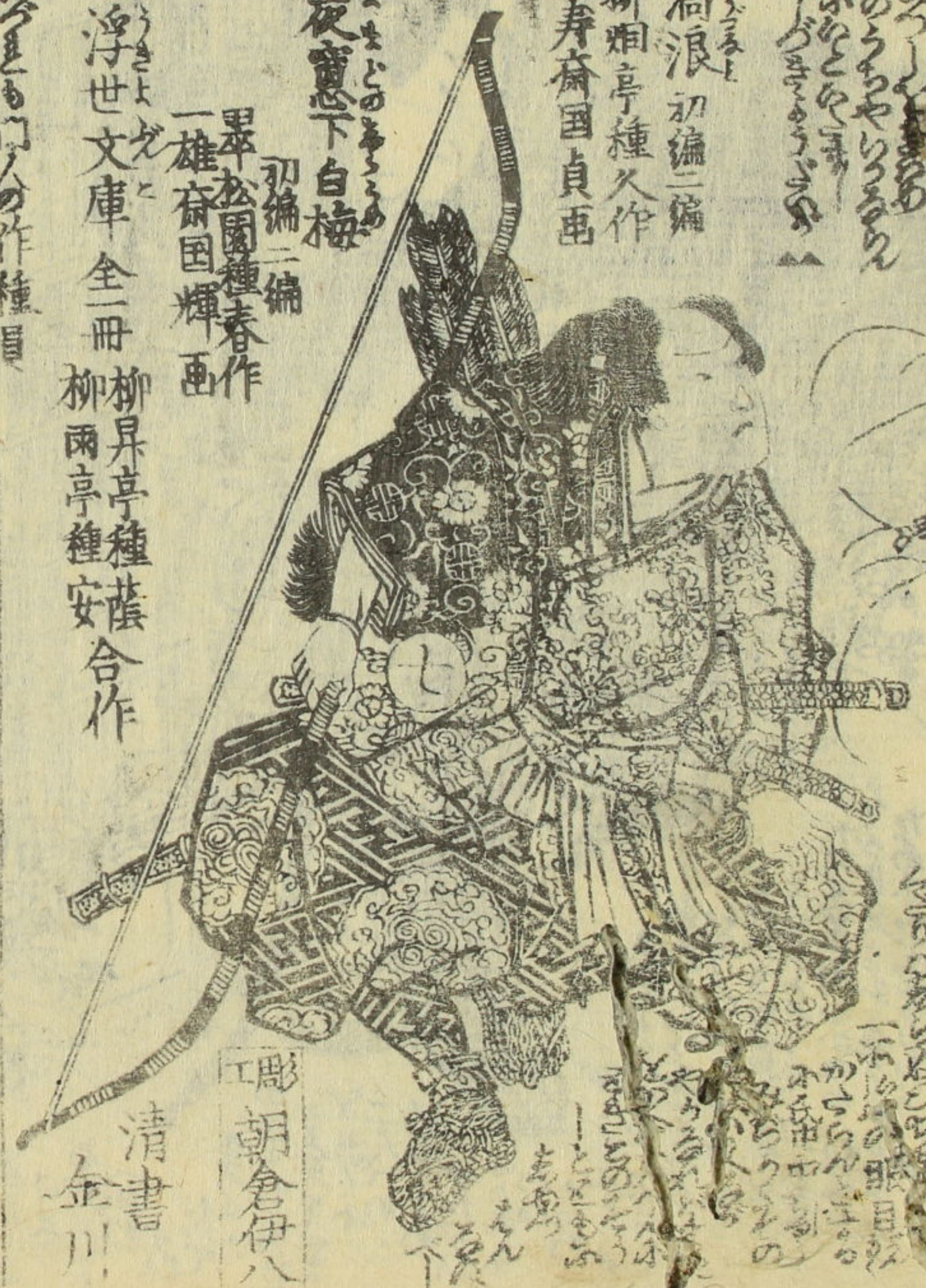
柳相亭種久作
 一寿齋国貞画

星月夜意下白梅 初編二編

翠松園種春作
 一雄齋国輝画

滑稽 浮世文庫全二冊 柳昇亭種蒞合作
 笑談 柳兩亭種安

右の如きも門人の作種員
 校合のまじり来五年出版
 仕なる所求はしるべきなり



種員作 國貞画

朝倉伊八
 清書
 金川

白縫譚

第四編より八編迄毎編違出版

柳下亭種員拙作
 香蝶樓豊國圖畫

初編は去る百五十年の事なり
 外意の如くは編の序に記す如く
 其の趣意は如何なるにてもいふ
 べからざるなり
 其の趣意は如何なるにてもいふ
 べからざるなり
 其の趣意は如何なるにてもいふ
 べからざるなり

板元 松林堂發行





白

蓮

譚

種

真

作

八
篇

豊

画

画

陽堂